

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 2 月 17 日 (2005.2.17)

【公開番号】特開 2001-43022 (P2001-43022A)

【公開日】平成 13 年 2 月 16 日 (2001.2.16)

【出願番号】特願 平 11-216393

【国際特許分類第 7 版】

G 0 6 F 3/033

H 0 1 H 11/00

【F I】

G 0 6 F 3/033 3 6 0 H

H 0 1 H 11/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 3 月 12 日 (2004.3.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明の透明タッチパネルは、2 枚の透明抵抗膜基板を、互いの透明抵抗膜が間隔をおいて向かい合うように構成し、外界から一方の透明抵抗膜基板に押圧操作を行うことで、電気的なスイッチとして機能させる透明タッチパネルにおいて、入力部以外の絶縁性を確保するために、少なくとも一方の透明抵抗膜基板の透明抵抗膜上に、紫外線もしくは電子線にて硬化可能な樹脂を用いて絶縁部を形成するものである。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

メチルエチルケトン可溶成分重量 % については、硬化物の初期重量 (W) を測定し、その硬化物をメチルエチルケトン中に 24 時間浸漬した後硬化物を取り出し、40 3 時間乾燥した後の重量 (Wd) を測定し、「メチルエチルケトン可溶成分重量 % = { (w - w d) / w } × 100」の式に従い求めた。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

【表 2】

		ガラス転移 点温度 (℃)	メチルエチルケトン 溶解成分 重量比率 (%)	基盤目 試験の 評価点数	表面 タック性	落下試験 結果	絶縁性試験
実施 の 形 態	1	75	35	10	○	○	○
	2	30	5	8	○	○	○
	3	-10	75	10	○	○	○
	4	80	35	10	○	○	○
比較 例	1	90	35	10	○	×	○
	2	45	2	2	○	○	○
	3	-15	85	10	×	○	○

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

また比較例3の様に硬化物メチルエチルケトンに可溶な成分の重量%が大きい場合には、表面タック性を生じ透明タッチパネルとしての製品上問題がある。80重量%より多い含有率では、密着性の点では問題ないが、架橋成分が相対的に少なくなるため、紫外線もしくは電子線を照射しても、表面タック性を生じてしまい、透明タッチパネルの製作上の障害となるものである。